1. 政府、世界銀行と4億7300万ドルの契約

二つのプロジェクトのため、政府は世界銀行と4億7300万ドルの契約をすることになった。二つの契約のうち一つはバングラデシュ銀行(BB)の金融市場基盤、調整及び監視能力を向上させることとバングラデシュの民間会社の長期融資アクセスを目的とした3億ドルの金融部門援助プロジェクトである。もうひとつのプロジェクトは1億7300万ドルの都市回復計画であり、これは政府各省庁が緊急事態の対応能力を強化し、ダッカとシレットで建築物の災害に対する脆弱性を減少させることを目的としている。経済関係局(RED)シニア書記官モハマッド・メジャブウディンと世界銀行ダッカ事務所総長代理クリスティーン E.キメスが、それぞれの代表として二つの契約に署名した。

金融部門援助プロジェクトは4つの構成要素で成り立っている。一つ目の要素はこれまでの努力の上に成り立ち、支払いと決済システム開発、クレジット情報局(CIB)の拡大と近代化のような幅広い部門での活動に焦点を当て、バングラデシュ・金融インテリジェンス・ユニット(BFIU)のシステムの強化、その他取引関係者のシステムとの統合、バングラデシュ銀行の情報技術(IT)自治とIT管理を強化のこれからの金融市場基盤を更なる向上、バングラデシュ銀行のIT資産の最適化、金融産業のためにITセキュリティの認識の向上などを行う。二つ目の要素は金融部門監査機関を強化することである。この要素はバングラデシュ銀行が一連の金融機関(銀行、銀行以外の金融機関)を管理し監督する能力を強化し、FIUを効果的に運営して、新しく革新的な商品で金融部門を開発し深めていくことを目的としている。三つ目の要素は長期融資のサポートである。これはバングラデシュの会社特に輸出業者に民間金融イニシアティブ(PFI)を通して長期融資(平均5年間の融資考察)をサポートすることになっている。最後に四つ目の要素はプロジェクトを実行するためのプロジェクト・マネジメントがバングラデシュ銀行金融機関部門援助計画(FSSP)室により、責任を持って行われることである。

2. 海外出稼ぎ労働者からの送金、150億ドルを超える

中央銀行により国内への送金の流れが増加するように、さまざまな方法がとられたため、その額が150億ドルを超えた。2014-15年度、海外で働くバングラデシュ人から送られてきた送金は153億1千万ドルとなり、これはバングラデシュ史上最高を記録し、前年度に比べ7.6%増加したとバングラデシュ銀行(BB)が発表した。海外に住むバングラデシュ人からの2015年6月の送金は14億3千万ドルと見積もられ、これは前の月に比べると1億998万ドル増加している。昨年5月の送金は13億2千万ドルで、翌月の6月は12億9千万ドルであった。14年度の国内への送金は政治混乱とマンパワー輸出が少なかったことで1年前の144億6千万ドルから1.61%減少して142億3千万ドルとなった。さらにマレーシアへのマンパワー輸出が、民間部門を通して開始されれば、国内への送金の流れがこれから数ヶ月の間に増加するとを期待されている。この動きの一部として、バングラデシュ銀行は国内送金の流れに便宜を図るために、地元の銀行に海外で両替ハウスを設立したり、送金業務契約をしたりする許可をしていると中央銀行関係者は説明している。バングラデシュ銀行専務取締役によると、現在世界中で34の両替ハウスが運営されており、国内への送金の流れをスケールアップさせるために、海外で1,078の銀行と送金契約をしている。先にも中央銀行は海外で働くバングラデシュ人は違法である「フンディ」システムではなく、銀行を通して汗水流して稼いだお金をバングラデシュに送金できることを認識させることを含め、さまざまな方法をとってきている。銀行を通せばわが国の海外為替準備金を増大させることができる。

3. GDPの伸びは取引特惠に影響せず

大臣や経済学者たちは、「バングラデシュは低所得国民を卒業して、下級中所得国民になることで取引特惠を失う心配はなく、反対に多いなる賞賛を得ることになる」と語った。わが国の一人当たりの所得は2014年には1,080ドルに達した。この数字は世界銀行の基準からすれば、下級中所得層に属することになる。世界銀行のランキングの評価にもかかわらず、バングラデシュは最貧国として2021年まで取引特権を引き続き獲得できる。LDC(最貧国)からの卒業と世界銀行の収入区分とは別物だからである。たとえば、バングラデシュこれは市場ベースの融資とは見なされていないが、世界銀行から譲歩ローンを得ている。市場ベース融資はその国の返済能力によるからである。しかし、国が裕福になると、低いレートで商業的な融資を受けやすくなると経済学者は語っている。

毎年7月1日になると世界銀行は前の年の国民総所得に基づいて世界経済の所得区分を修正している。政策研究所専務理事アハサン H.マンソールは、「世界銀行に認められることはわが国にプラスの利益をもたらすであろう」と語った。国際通貨基金の元経済学者は、「ランクアップすることでバングラデシュはその特惠を失うことはない。しかし、上級中所得層に入れば、開発レンダーからの譲歩ローンの獲得の資格は失うことになる。しかし、それはまだまだ先のことで

ある。上級中所得層になるためには、一人当たりの所得が4,000ドルを超えなくてはならない」と語った。バングラデシュは先に終了したばかりの会計年度の一人当たりの所得が1,314ドルとなっており、目標としていた1,242ドルに悠々と達成している。バングラデシュは世界銀行の最新ランキングによると、購買力平価が世界で35番目に大きな経済国であることも認められている。

4. 貿易赤字倍増

収入の大部分を占めている衣料部門が危機状況のイメージを示したため、輸出成長が減速し、先に終了したばかりの会計年度の最初の10ヶ月の間に貿易赤字は倍になった。バングラデシュ銀行の統計によると、昨年度の7月から4月の間に貿易赤字は昨年の55億1千万ドルから85億ドルに達した。この間輸出は政府が2014-15年度に計画していた10%に対してわずか2.67%の成長しかしなかった。活躍できなかった状況を考慮して、政府は輸出目標を修正して5%に下げた。AMA ムヒト財務大臣は国家予算発表スピーチの中で、「目標にされた成長もユーロに対してタカが高値となり、不景気なユーロゾーン経済と、アパレル産業界で現在行われている労働者の権利の保護と労働条件の改善プロセスのため達成することができなかった」と語った。

一方、輸入のほうは大きな成長を見せ、マイナス貿易収支を広げる結果となった。2014-15年度の最初の8ヶ月、輸入は1年前の9.1%とは対照的に、12.19%増加した。政府は中期マイクロ経済政策声明で、「高い輸入成長ということは活発な国内の需要があると信じている。特に資本機械の輸入は大幅に増加しており、近いうちに生産能力が拡大することを示している。昨年度の最初の11ヶ月の間、資本機械の輸入は20.76%増加し、1年前には16.96%であった。資本機械の輸入の増加は投資と輸出が順調に成長していることを示している。しかし、原料の輸入はこの間3.52%しか成長しておらず、輸出状況と同じである。1年前には12.53%の成長を示していた。その後政府は今年度輸出に対しても輸入に対しても実際の成長を目標を設定した。輸出に対しては12%、輸入に対しては11.5%を目標にしている。輸出収入は主な輸出市場が徐々に回復しているため年間平均12%の割合で成長していくものと予想している」と発表した。

5. 衣料メーカー、国内市場に進出

世界のアパレル市場を征服した後、これを国内でも成功させようと、わが国の衣料メーカーは国内市場に眼を向け始めた。昨年一年の間に、ウォルマート、ヒューゴ・ボス、JC ペニー、H&M、マークス・アンド・スペンサーなど、欧米のブランドにこれまで数十年間輸出していた少なくとも5つの輸出向けの会社が、ダッカに豪華な小売店を開いた。産業内部関係者によると、国内ファッション市場の規模は年間50億ドルを超えるものと見られている。8ヶ月前にダッカに第一号店を開いたノワールは、現在首都に2件の店を経営している。会社は今年の終わりまでには新しい支店を2店舗オープンし、その後市外にも数店舗を開く計画をしている。「お客様からの反応は驚くものだ」と関係者は語り、若者がノワールのターゲットであることを付け加えた。

もうひとつ成功したブランドは、ベキシムコによるイエローである。イエローは国内市場で繁盛しているだけでなく、パキスタンでも活躍している。「パキスタンには4つの支店がある。世界成長は欧米からアジアに移り変わっていることに気がつき、イエローは2004年に開業した。現在、タイとシンガポールでもブランドを紹介する交渉をしている。タイとシンガポールでもブランドを紹介する交渉をしている」とイエローの常任理事セルヤール・バーニーは語った。イエローは現在4つの店舗をバングラデシュに持っている。そして他の国にもこのブランドを拡大する計画をしている。会社はアルジェリアやインドにもパートナーシップがある。

西洋に衣料アイテムを供給していたエピリオン・グループはここ5ヶ月の間に、「セイラー」というブランド名でダッカ市内に5軒の店を出した。デニムで有名なパーテックス・グループも、この競争に参加している。パーテックスのベンチャー会社アンバー・ライフスタイルの代表取締役ショウカト・アジズ・ラッセルは、「バングラデシュが世界でも有名な衣料ブランドになる日が来る」と語った。アンバー・ライフスタイルはダッカの4つの店舗で衣料品だけでなく、男性女性両方のための輸入アクセサリーも取り扱っている。

6. IFC、衣料メーカーへの小口融資に尽力

基金の設立によって、衣料メーカー特に中小規模のメーカーは、IFC(国際金融公社)から彼らの工場を国際小売業者が設定した基準に合わせて改善するために、手ごろな融資として5000万ドルが可能になった。バングラデシュの衣料産業で働く労働者たちの安全を守ることを目的に、欧米の小売業者のエンジニアたちによって計画された修正行動計画(CAP)のもとで、この基金は設立された。世界銀行グループのメンバーであるIFC(国際金融公社)は、5つの地元の銀行を通して支払われることになっている総合的なプログラムを発表した。それに付け加え、IFCは世界中の何十にも上る大手衣料ブランドやアリアンス、アコードらと、それぞれ協力合意に署名した。このプログラムはアコードとアリアンスのダッカ事務所によると、彼らのサプライヤーへの援助にも加えられることになっている。先にも、この二つのグループ

は、基金の設立が遅れていることに対し懸念を示していた。このプログラムのもとでは、基金提供エージェンシーは、5つのバングラデシュの銀行にそれぞれ1000万ドルを提供することになっている。これらの銀行は特に構造、電気そして火災(SEF)に関する改善をするために衣料工場に、融資を増やすプロジェクトに参加することが認可されている。

プライム・バンク・リミテッドは既にこのイニシアティブに署名し、そのほか4つの銀行も数週間のうちに署名すると思われる。このプログラムに関わっている取引機関は Brac, EBL, UCB そしてシティー・バンクである。アコードとアリアンスは、それぞれこのプログラムが実行されるように25万ドルずつ提供することになっている。バングラデシュでは融資へのアクセスは昔から厄介で費用がかさむもので、融資に担保をつけるのが困難で、返済の利子も法外に高く、短期の返済を求められている。融資プログラムでは、手ごろな長期融資が必要な中小規模の工場をサポートすることが優先されている。最高4.5%の利子で融資を提供しており、3年から5年の間に返済することが認められている。この動きを歓迎し、バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)副会長 Md.シャヒドウッラ・アジムは、「遅ればせながら、二つの団体は現在の状態で何が必要なかを理解した。このプログラムは特にこの部門の40%を占める中小企業工場が彼らの改善事業の速度を速めるのに役立つであろう」と語った。

7. 衣料輸出4%成長、ただし目標未達

輸出推進局のデータによると、2014-15年度衣料輸出は4.08%増加し255億ドルになった。終了したばかりの昨年度のニットウェアの輸出は1年前に比べ3.13%増加し、124億2千万ドルとなり、織物衣料の出荷は5%成長し、130億6千万ドルとなった。しかし、アパレル部門からの輸出収入は年間目標の269億ドルよりも5.24%下回った。わが国の輸出収入の80%以上が、以前はその目標を達成していた衣料部門から来ている。2013-14年度もそしてそれ以前の4年間も達成していた。衣料メーカー及び輸出業者協会会長アティクール・イスラムは、「1月から3月の間に起こった政治混乱のために出荷が遅れ、収入が減少した。その上、主な通貨—米ドル、ロシアルーブルそしてユーロ—の低下も輸出目標を達成できなかった原因である。雑居ビルに存在する中小企業の工場は、ラナプラザ崩壊事故のあと注文が減少している」と話している。全体的に2014-15年度には輸出は1年前に比べ3.35%上昇し、312億ドルになったが、年間目標の332億ドルよりも下回っていた。政府のデータによると6月になると輸出は上昇し、前の月よりも7%上昇し30億4千万ドルとなり、1年前の同じ時期に比べると8.68%成長している。

8. 銀行、RMG 労働者のために7/15まで業務続行

RMG(既製服産業)と取引している商業銀行の支店は、RMG 従業者と労働者への賃金の支払いと休暇のボーナスの支払い、便宜のために7月15日まで業務を続けることにしている。バングラデシュ銀行の回状によると、既製服産業と関係のあるダッカ市内、アシュリア、トンギ、ガジプール、サバル、ナラヤンゴンジそしてチッタゴンの銀行、その産業の従業員と労働者に賃金と休暇のボーナスの支払いのために7月15日まで業務を続けるよう通知した。回状では空港、港、そしてランドポートにある銀行支店もその日には業務を行うことも、今回のバングラデシュ銀行からの回状で通知されている。銀行はその日に働いた銀行員たちに、報酬を支払うことも通知されている。

9. JICA、RMG 工場の耐震強化に貢献

日本の専門家はバングラデシュのエンジニアと一緒に、労働者の安全を確実にするためにアシュリアの衣料縫製工場を、耐震性のある工場にするために組織的改造建設工事を始めた。DKグループの姉妹会社DK ニットウェア・リミテッドは、日本国際協力機構(JICA)が準備した85万ドルのソフトローンを利用して改造に着手した。改造はそれを破壊しないで、耐震性を強化する技術である。通常、目標とされた建物の新築費用の30%から40%でこの改造を行うことができる。JICAはラナプラザの惨事後、工場で働く労働者の安全確保を目指して、RMG工場のオーナーに融資を行うためにバングラデシュ銀行と10億ドルの基金を設立し、「RMG部門安全環境プロジェクト」と名づけられたプロジェクトを始めた。プログラムのもとで、RMGのオーナーたちは日本の技術協力で、彼らの工場を査定することができるようになった。また改造により彼らの工場を強化するために、JICAが準備した基金を利用する機会を得ることができるようになった。

DK ニットウェア・リミテッドは、JICA基金と日本からの専門家の援助を受けた初めてのRIG工場である。さらに214の工場が公共事業局(PWD)によって実行された「建設天災耐性技術と公共建築物の改造のための能力開発(CNCRP)」と呼ばれるもうひとつのJICA基金プロジェクトによるアセスメントに選ばれた。JICAは災害に弱いわが国のRMG工場をもっとカバーできるように、まもなく大きなプロジェクトを実行することになっていると発表している。来月で終了する4年間のCNCRPプロジェクト(2011-2015)の間、わが国のエンジニアたちはJICA専門家たちのチームから改造技術の様々な訓練を受けている。このプロジェクトのもとで、日本の専門家とPWDのエンジニアたちは既にモデルとして、テズカオン消防署を改造した。

10. 対米衣料輸出増加

商務省のデータによると、わが国の最大輸出先アメリカへの衣料輸出は、1月から5月の間、1年前に比べて7.09%増加した。アメリカ経済が持ち直してきたことに乗じて、バングラデシュは最初の5ヶ月で23億2千万ドルに相当する衣料製品をアメリカに輸出した。ラナプラザの崩壊事故の反響で、2014年は1年中アメリカへの輸出がマイナス成長であったので、この進展は多くの人たちの緊張を緩和した。昨年アメリカへの衣料輸出は、1年前に比べ3.17%減少し、1月から11月の間46億4千万ドルであった。しかし、今年の3月からバングラデシュの衣料製品に小売業者が自信を取り戻したため、輸出はまた上昇し始めた。その上、バングラデシュは中国から移動された注文を受けている。事前点検の後、二つの検査機関—アコードとアリアンスからポジティブな監査結果もプラス効果を引き起こした。バングラデシュからの衣料輸入は大きくなる傾向にある。今年、アメリカは426億ドル相当の衣料アイテムを輸入している。この間のアメリカへの衣料製品の輸出は、トップ10の中で中国が第1位そしてバングラデシュは第6位であった。バングラデシュから年間約56億ドル相当の商品がアメリカへ輸出されており、そのうち95%が衣料アイテムである。

11. 綿栽培の遺伝子組み換え技術試行

バングラデシュは、中国から様々な種類の遺伝子組み換えの(GM)コットンを輸入し、グリーンハウス栽培の試行を開始した。フベイ・プロビンス・シード・グループ会社から輸入されたGMコットンの種子は土壌に存在するバクテリアから取り出された遺伝形質—バチルス菌(Bt)が吹き込まれており、これはオオタバコ蛾の幼虫や有害な毛虫からコットンが被害を受けないように戦う効果がある。ガジプールのバングラデシュ農業研究所(Bari)のグリーンハウスで、Btコットンの栽培が始まったことを確認して、綿開発委員会(CDB)常務理事 Md.ファリド・ウッドイン博士はデーリースターに、「いったん農民にGMを紹介すれば、この国の綿産業に革命を起こすであろう。毎年バングラデシュは僅か15万バレルの綿しか栽培しておらず、需要を満たすため500万バレル以上を輸入しており、そのために2千億タカを使っている」と語った。産業筋によると、合成農薬は綿につくオオタバコ蛾の幼虫と戦うにはますます効果を失ってきており、結果として20%も収穫が減少している。綿栽培全体の生産コストの40%は、殺虫するための経費である。BARIバイオテクノロジー部門局長ディル・アフロザ・カノム博士は、「グリーンハウスの実験が、今年の12月までに成功を収めれば、Btコットンは次のシーズンにBARIコンパウンドで試行栽培がなされ、その次のシーズンからは地域レベルでその適応性を見るために試行栽培が始められることになっている」と語り、ファリド博士は、「3年以内に試行栽培を終了させて、GM種子を全綿栽培農家に行き渡らせなくてはならない」と語った。

12. ハシナ首相、道路などインフラ整備の取り組み発言

シェイク・ハシナ首相はダッカからのビデオ・コンフェレンスを通して、バンダルバンに建設されたバングラデシュで一番高い所に位置する道路の開通式を行った。彼女はまたその他二つの道路、そしてバナバハンからのバングラデシュ・インランド水上交通会社(BIWTC)の一艘の船と2艘のフェリーの開通式も行ったとbdnews24.comは報告した。ハシナ首相はこれらの開発プロジェクトは、彼女の政府からのバングラデシュの人々への「イードの贈り物」と表現した。これらの中には33kmにわたるバンダルバンにあるタンチ-アリカダム・ロードが軍隊の監督の下に、11億7千万ドルの費用をかけて建設されるプロジェクトがある。労働交通架橋省大臣オバイドゥール・カダールは、「これはわが国で最高のところに位置する道路である。およそ海拔2,500フィートのところに位置している」と語った。二つのビデオ・コンフェレンスでハシナ首相は、「道路インフラの開発で、教育や健康面も含め丘陵地の人々の開発がスピードアップすることを望んでいる。学生のために住居施設も学校やカレッジにあわせて建設する。国立の学校やカレッジを、わが国のすべてのウポジラに開校する。アワミリーグ政府は、チッタゴンの丘陵地域での暴動がなくなるように、平和協定に基づいてこの地域の開発プログラムを入念に着手している」と語った。コンフェレンスで、首相はラングプールの6kmのハイウエーを4レーンへ、10.5kmのアシュリア-ビルリア道路と橋にグレードアップするプロジェクトの開始宣言もした。終わりに、ハシナ首相はBIWTCの客船MVマドゥマティとバシヤ・サイニク・ゴラム・マウラ ロー・ロー・フェリー、クスムカリのフェリーの開通式を行った。ハシナ首相は荷物や人を低コストで運搬できるので水上交通を普及させる政府の様々な動きにも言及した。

以上